

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月28日

【評価実施概要】

事業所番号	3873300291		
法人名	医療法人 さくら会		
事業所名	グループホーム 菜の花		
所在地	東温市志津川91-3 (電話) 089-960-5855		
管理者	井出美智子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	松山市持田町3丁目8-15		
訪問調査日	平成19年7月2日	評価確定日	平成19年8月30日

【情報提供票より】(19年6月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 15年 7月 1日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27人
職員数	21人 常勤15人, 非常勤 6人, 常勤換算 17.5人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1200円

(3) 利用者の概要(6月12日現在)

利用者人数	27名	男性	2名	女性	25名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	12名	要介護4	4名		
要介護5	6名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.8歳	最低	61歳	最高	98歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定 <u>あり</u> ・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定 あり <u>なし</u>	指定認知症対応型通所介護
届出 あり <u>なし</u>	短期利用型共同生活介護
加算 <u>あり</u> ・なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景の広がるのどかな環境に立地し、和風の平屋建ての軒先には燕が巣を作り雛を育てる姿がある。明るく開放感のある共用空間があり、そこから眺める中庭の芝生の緑が安らぎを与えてくれる。母体が医療機関で、優しい介護を軸に、一人ひとりを尊重し共に暮らす姿勢と明るい職員のケアは利用者の安堵に満ちた表情にあらわれ、笑顔の源となっている。地域との関わりは日々進められ、外出は利用者により気分転換と四季の移り変わりを感じさせてくれる。法人内外の研修の機会に恵まれ、全職員の意欲は高く評価できる。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
改善課題を真摯に捉え、全職員が共有し真剣に取り組んでいる。理念の浸透に向けて、簡潔な表現に改め日々確認している。地域への関わりはまず近隣の方々と接点を持てるよう努力している。金銭管理のサインは、ご家族の面会時または月1回得ている。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
ゆっくり時間をかけ、質の向上を目指して全職員が話し合い意見を出し合って自己評価に取り組んでいる。評価のねらいや展開について全職員で学習し今後着眼点を共有しながら進めていくことを期待する。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
同法人内施設と合同で会議を進めている。行事实施報告や利用者本人の発言を聞き、サービスの質の向上に活かせる内容になっている。自己評価の内容説明や外部評価結果を報告し、参加者から助言を頂いている。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
家族の立場に立った要望の受け入れを検討し、日々意見や気持ちを伝えてもらうための努力を重ねている。苦情はホームにとって大切な宝であるとの認識のもと、全職員で共有・対応・反映する姿勢が見られる。認知症に対する相談には、納得・理解・安心が得られるまで話している。
▼ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
積極的な外出や家庭菜園づくりで地域の方との接点が生まれ、会話が弾んでいる。志津川ゆうゆうクラブとの交流は、地域で暮らし続けるための基盤となる。幼稚園児や小学生の定期的な訪問は、利用者の楽しみ・癒しになっている。お正月のしめ縄飾り用の藁や稲穂を近所の方から頂いている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム 菜の花

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)
氏名 井出 美智子

評価完了日 19年 6月 14日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) その人らしく暮らし続けていけるよう、事業者独自の理念をつくりあげている。 (外部評価) “優しい介護”を軸に、職員自身の言葉にわかりやすく作り変えたばかりである。地域密着型サービスについては、一つひとつ積み上げていくよう努力している。		職員全員で話し合い、みんなが納得のいく理念を作っている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 毎朝の朝礼で運営理念を唱和して、理解を深めている。 (外部評価) 職員の名札裏面に理念を明示し、意識を高めている。理念が生活の場で活かされ反映されるよう毎朝確認している。		日々理念及び、勤務マニュアルを唱和し、職員一同同じ目標に向かっていけるようにしている。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 毎月1回、菜の花だよりを発行している。地域とも交流し理解してもらっている。		
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近隣の幼稚園・小学校、公的機関等と交流を深めている。	※	催し物等の時は地域の施設、スーパーに告知し参加を呼びかけている。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 近隣の商店等と交流を行い、行事等の参加に努めている。また、日常的なつきあいだけでなく、広く意見を求めている。 (外部評価) 志津川ゆうゆうクラブとの交流は地域の人々と関わりを持つ基盤となっている。幼稚園児が定期的に歌や踊りを披露してくれたり、小学生が絵や手紙を持参してくれることは、利用者の楽しみの一つになっている。	※	地域の自治会・老人会などの行う、清掃などの参加に、声かけをしてもらい、参加をする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域のボランティア活動等、パソコンで検索し、話し合い取り組む努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価後ミーティングを重ね、改善にむけ取り組んでいる。 (外部評価) ホームの質の向上のために前回評価結果の改善点を一つひとつ丁寧に見直し、前向きに取り組んでいる。自己評価はゆっくり時間をかけ全職員で作成している。	※	色々な意見を出し合い、話し合って改善出来ることは積極的に改善していきたい。 さらに参考資料等で項目の理解を深めるなど全職員が学習され、自己評価を行うことを望む。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヵ月に一回地域の代表の方々、家族等に集まっていた話し合いサービスの向上に努めている。 (外部評価) いつも同法人のホームと合同で開催されている。自己評価や外部評価の内容についても話し合っている。地域密着型にむけメンバーの拡大をはかっていきたいと考えている。		地域の方々の声が直接聞けるので大事にし、意見はホームに持ち帰り、職員間で話し合っている。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 県・市共に訪問して頂いたり、訪問したりと、密に連携をとっている。 (外部評価) ホームのケアマネジャーが市に出向き、実情や取り組みを折に触れ伝えているが、市とのより積極的な連携については今後の課題である。	※	これからのグループホームの役割等、学ばなければいけない事が多いので、協力依頼をお願いしたい。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在は該当者はいないが、県・市の勉強会に出させていただき、理解出来る様努力している。		5/9県の社会福祉協議会の、「成年後見制度講義」に参加し、後日ホームで勉強会を開催した。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 県の勉強会に参加している。		4/24県の社会福祉協議会の「虐待防止」について講義に参加し、ホームで勉強会を開催した。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所契約時、十分な時間をとり説明を行ない、理解を得られるように努めている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 相談・苦情窓口を設置し、対応している。口頭でも、入居者が気軽に申し出る体制が整っている。		苦情受付先・担当を、施設内に掲示しており、申し出し易い雰囲気づくりをしている。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 来所時、また菜の花だよりにて、報告している。 (外部評価) ホーム便りは毎月家族に届けている。面会時には声をかけ利用者の状況をきめ細かく伝えている。遠方の家族の中には、2～3日宿泊される方もあり、ゆっくり会話することができる。		1カ月に1度、生活状況・健康状況等、変化のある無しに関わらず、詳しく説明している。又1カ月に1度、金銭管理簿の報告をし、家族様にサインをもらっている。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 相談・苦情窓口を設置して、対応している。口頭でも、入居者が気軽に申し出る体制が整っている。 (外部評価) 管理者は、素直に家族の声を受け止めたいと意識している。苦情はホームにとって大切な宝であり、職員全員で対応・共有することが質の向上につながると考えている。		苦情相談員も配置し、ケース会議等を開催している。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングや朝礼時など、個々の職員が発言できる機会を設け、反映させている。		1ヶ月に1回、ミーティングを開催している。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 特別な行事・外出時等、必要に応じた職員数を確保出来るよう、努力している。		申し送りノートを活用し、職務の役割分担を行う等している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 馴染みの関係が出来る限り、続くよう異動には細心の注意を払っている。 (外部評価) 3ユニットで夜間は2名体制となっており、職員が3ユニット間で異動することは、利用者全員と顔馴染みになることや家族への信頼関係を深めるためにも重要なことである。全職員が安全に介護するための配慮がなされている。		管理者が職員個々の性格等を把握し、やむを得ない場合はダメージを必要最小限に抑えるよう、努力している。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 県・市の勉強会、資格取得等に積極的に参加して前向きに人を育てる環境が出来ている。 (外部評価) 法人内の勉強会は月に2～3回あり、内・外部の研修参加に理解がある。職員の研修意欲が高く、研修後の記録や報告は的確に行っている。		管理者からの通知、もしくは自主的に研修会・法人内の勉強会等に、参加できる体制にある。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 他のグループホームと、行事の時などに利用者さんを招待したり、こちらも訪問させて頂いたり、している。 (外部評価) グループホーム同士の例会参加の折には名刺を交換し、お互い質の向上に向けて、プラスになる事例を話し合っている。他のグループホームとの交流が計画されており、受け入れも可能である。	※	行事の時だけではなく、日常的に相互訪問等の活動をして、サービスの質を向上させる取り組みをしていきたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員同士で気軽に会話が出来よう、職場外での食事会等を行なっている。		法人内の季節の行事等に参加し、相互理解を深め働きやすい職場環境をつくるよう努めている。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 研修費用の事業者負担など、運営者からの支援をもらい、職員の質の向上に努めている。		職員の意識向上のため、研修会への参加が積極的に行えるよう、支援している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 最初のアセスメント以降も、常に耳を傾け話をし言葉にならないニーズも把握し、出来る限り本人さんを理解する努力をしている。		アセスメント作成時、本人さんの希望等、深いところまで気付くよう、また本人さんからのサインに気付くよう努めている。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面会時、家族様のニーズを、職員がさりげなく聞きだせる様に、努力している。		家族との信頼関係を密にし、気軽に話し合えるように努めている。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメント時に要望等を聞き、医師・リハビリの職員等に協力をしてもらうなど、対応をしている。		ケアマネージャー・職員間で話し合い個々に合った支援が出来るよう努めている。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 相談されてから、ホームの見学などの時間をゆっくり持ち、雰囲気馴染める努力をしている。また、体験利用も受け入れている。 (外部評価) 本人が週1回のおそびりテーションに参加したり、家族と一緒に見学したり、納得した上で安心感を持って入居できるようにしている。		職員・他の入居者さんと食事をしたり、あそびりテーションを見学していただいたりして、少しずつ雰囲気に馴染める工夫をしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 介護する、される関係ではなく、同じ目線で寄り添いながら、共に生活し支えあう様な関係づくりを目指している。 (外部評価) 寝たきりであっても常に声かけや握手をしたり、コミュニケーションを大切にしている。利用者の昔話を傾聴し、一緒に暮らす中で安心や安定が生み出されるよう全職員が留意している。		様々な事を教えてもらう姿勢でケアにあたり、その人の価値観を尊重し、共に支えあう関係を築いていく取り組みをしている。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族さんの話を傾聴し、価値観が共有しあえる様な関係づくりが出来る様努力をしている。		家族さんとの情報交換をしながら、支援を行っていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人さんと家族さんが、ゆっくり楽しく話が出来る様な雰囲気づくりと、お互いに必要だといつまでも感じあえる様な状況をつくっていく工夫をしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 自宅・自宅近くの馴染みの店等に、家族さんの協力を得て出掛けたり、本人さんとの関係が、切れない配慮をしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 個々の感性・価値観を尊重し、共同生活がマイナスとならない様に工夫している。		時には職員も会話の中に入り、同じ話題で支えあい孤立しないよう支援している。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 自宅へ帰られても併設の介護サービス等受ける方が多いので、連絡をとりあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) その人の生活履歴を把握し、希望・意向にそった生活が出来る様支援している。 (外部評価) 食後やおやつの時など利用者の満足度が高い時やゆっくり寛いだ気分の時に、趣味の歌・ぬり絵・習字などの希望や思い、意向等を把握するよう努めている。		本人さんが困難な場合には、家族さんと話し合い、見だし把握して、その人らしい生活が送れるように支援している。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族さんの来所時等に、ゆっくり話をして色々なことを教えてもらうよう、努力している。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 出来ること、出来ないことの把握をしその人にとって生活の質が良くなる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) サービス担当者会議を、開催している。 (外部評価) 利用者一人ひとりにあったケアができるよう、家族の協力を得ながら、担当職員やケアマネジャーを中心に介護記録等も参考に、介護計画を作成している。	※	グループホームの特性を生かした、より個別的な介護計画を、家族さんの要望もふまえて、作成していきたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 計画期間・急激な変化等に応じ、計画の見直しを行なっている。 (外部評価) 見直しは3か月に1回行い、月1回のミーティングでも検討している。利用者の状態変化や状況・家族の要望に応じ随時見直しを行っている。		本人、家族さんに見直しが必要であることを説明したうえで、現状に合った介護計画の見直しを行っている。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 月に1回、ユニット毎のミーティング、全体のミーティングを開催している。 また申し送り等で情報の共有に努めている。		日々の生活状況等観察記録を活用し、介護計画の見直しをしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 急な外出等、職員が付き添える様支援している。 (外部評価) 同法人に小規模多機能性を持った施設がある。 ホームとしての多機能性については、運営者の意向が反映されている。	※	グループホームの特性を生かし、より柔軟に家族さんの要望に応じられる様、取り組んでいきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 毎日の生活の中で必要となるものは、連携を図っている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人さんの状況・意向に応じ、適切なサービスが受けられるように支援している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 現在は該当する利用者がいないが、成年後見制度等必要な場合は、活用していきたいと思っている。	※	地域包括支援センターの役割等、より多くの知識を得て、利用者さんが地域の中で暮らしていくうえで、必要となる事の学習を重ねたい。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 併設している連携医療機関の、週1回の往診等により、家族さん・医師と連携をとり信頼関係を築いている。 (外部評価) 週1回訪問診療がある。血液検査やレントゲン撮影など一人ひとりの状態に合わせて受けることができる。結果は家族と共有し、疾病の進行予防等に役立っている。		病状・体調の変化時は、医師及び家族にも連絡を速やかに取り、適切な医療を、受けられる様支援している。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 併設の連携医療機関が専門医の為、診断や治療は安心して受けられる。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 併設している連携医療機関と、連絡を取り合っている。		日常の健康管理や医療活用を密にとり、支援している。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 併設している連携医療機関と連絡をとりあい、入院した時も早期の退院を目指し、日常生活に戻れるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 連携医療機関が併設なので家族、医師と話し合いをし、ターミナルケアを目指している。 (外部評価) ホームとして看取りの経験があり、現在も重度の寝たきりの利用者が数名いるが、職員同士チームを組んで最大のケアができる体制になっており、家族は安心している。		本人・家族さんの意見を尊重し、終末期のありかたについて十分な話し合いをし、全員で方針を共有している。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 病院・家族さんと連携をとりながら医師・看護職・介護職のスタッフがミーティングをし、協力しながら、ターミナルケアに取り組む努力をしている。		連携医療機関と、24時間いつでも連絡をとれるようになっている。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 家族、ケア関係者間で話し合い、情報交換をしながらダメージ防止に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人に合わせた言葉遣いや対応をし、個人の情報等は外部に漏らさない、持ち出さないように徹底している。 (外部評価) 職員はプライバシー保護の誓約書を就業時に交わしている。利用者の尊厳については利用者を傷つけないようさりげなく看ることをモットーにしている。言葉かけには細心の注意を払っている。		家族さんの来所時等、必要に応じて個室で話し合ってもらおう等、個人情報・書類等は持ち出しは禁止になっている
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 出来る限り、自己決定できる場面を作り、納得して暮らせる支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の都合でなくその人に合ったペース、希望を聞きながら支援している。 (外部評価) 利用者の余裕ある落ち着いた表情や笑顔は、理念にもある優しい介護の賜物である。職員の明るさが加わり重度の方へのスキンシップ・声かけも行き届いている。	※	日々の忙しさの中で余裕がない時もあり、職員側の都合になりがちなので、気を付けて取り組んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 衣類等本人の希望を取り入れ、理美容は行きつけの店に行く、また訪問等の地域のフォーマルサービスを活用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 介助を必要とする入居者の方が多いため、職員全員とはいかないが実行している。 (外部評価) 菜園のじゃが芋や夏野菜も食卓に登場する。配膳のできる人には活躍してもらい、和やかな雰囲気ですぐに進められている。		個々の能力を把握し、失敗させない環境をつくる工夫をして、支援している。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お酒・タバコを希望される方は現在居ないが、飲み物・おやつは、その方の好みに合ったものを、提供し、楽しんでもらっている。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 個々の力や排泄パターンを把握し、自尊心を傷つけないよう支援している。		失敗してもさりげなくフォローし、自尊心を傷つけない様、工夫し気持ちよく排泄出来る、支援をしている。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 利用者本人さんの希望に応じ、入浴支援している。 (外部評価) 午前・午後と入浴可能である。入浴を拒む利用者には、「訪問診療日なのできれいにしましょうね」と優しく言葉かけをしたり、家族に声かけに協力してもらうなど、心地良い入浴支援を行っている。		1人1人の生活パターンに合った、入浴を楽しめるよう支援している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中出来る限り、あそびり・趣味等で活動的に過ごしていただき、安心して気持ちよく眠れる様、支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 個人の得意な分野を活かし、生活の中で役割がもてるよう支援している。 (外部評価) 一番の気晴らしは外出すること。職員と食料品や衣類の買い物・外食・神社の行事など喜んで参加している。ホーム内では洗濯物の片付け・食事の準備・すそ上げなどを手伝うことで、自分らしい姿を発揮している。		掃除・洗濯・配膳等個々の能力に応じ、出来るだけ楽しく生きがいをもって、暮らせる様に支援している。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人さんの能力に応じ、お金を所持し、使えるよう支援している。		近所のスーパー等で買い物する時、入居者さんの手にお金を渡し、支払いをしてお釣りをもらうなど、お金の大切さを、理解してもらう支援をしている。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 月単位でスケジュールをくみ、それに沿って希望を取り入れながら、戸外に出掛けられるよう支援している。 (外部評価) 毎週木曜日の午後は外出計画を立てて実施している。近隣の方と会うと会話が弾む。	※	介護度の高い方もいるので、もう少し日常的に外出できる工夫をしていきたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 時間をつくり、話し合いをして行けるよう支援している。		普段外出が出来ない方などは、時々家族さん同伴で外出出来るよう、協力してもらっている。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 要望がある方には支援を実施しており、無い方にも関係が途切れないよう、声かけし支援している。		誕生会や行事等に電話や、案内状を送り支援している。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気持ちよく過ごせる、雰囲気づくりをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全ての職員が正しく理解しており、ミーティング等での話し合いも行なっている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者さんや家族さんに、心理的圧迫を与えないように、居室や日中の玄関は施錠していない。外玄関は不審者の侵入を防ぐなど、防犯上施錠している。 (外部評価) 利用者が安全に自由に暮らせることを大切に考えている。外出傾向の高い方も見られるが職員は連携プレーで対応している。建物が長い廊下で繋がっているので、老人車を押しながら行ったり来たりする利用者も見受けられた。		基本的に施錠はしない取り組みをしているが、やむをえない場合は家族さんに説明し、理解を得られるよう努めている。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 常にさりげない目配り、気配りで対応している。		居室の扉が半透明なので、入居者さんが居室側から鍵をかけて休まれる場合も、中の様子がしっかり観察出来る。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者さんの状態に応じて見守り、声かけし対応している。		特に注意が必要なものなどは、入居者さんの目に触れない所に管理・保管している。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 服薬チェック表をつくり毎回確認しており、事故防止の為の勉強会も開催するなど、取り組んでいる。		食事は利用者さんの状況に応じて、キザミ・ミキサ食等にするなど、工夫している。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 救急救命等の勉強会を定期的に行ない、取り組んでいる。		東温消防署より、年1回救命救急の講習を開催してもらい、職員全員が緊急時に対応できるよう、勉強している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防災マニュアルを作成し、年2回東温消防署の指導及び訓練を受けている。地域の人々の協力も得られるように働きかけている。 (外部評価) 防火・避難訓練は3月と9月に年2回実施しており、夜間想定も行っている。マニュアルが作成されている。建物は平屋で、広い中庭に避難しやすい設計になっている。	※	地域の方々の協力が得られるように、災害時の訓練と一緒にできるようなり取り組んでいきたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時に起こりうるリスクについては、家族さんによく説明し、納得してもらえよう努力している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調の変化や異常に対し早期発見出来るよう、常に見守りをして、変化に気付いた時は、速やかに対応している。		連携医療機関が併設の為、体調の変化・異常に気付いたときは、速やかに病院に連絡し、24時間対応出来る体制が整っている。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者さん個々の服用している薬は把握しており、用法・用量は理解出来ている。また、薬情等により副作用や注意事項も確認している。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 利用者さんの便秘の原因、排泄の状況を理解し、予防と対応に取り組んでいる。		バランスのとれたおかず、繊維の多い食品を摂取してもらい、水分もしっかりとってもらえるよう、確認表を使用し、取り組んでいる。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 歯磨きチェック表を使用し、毎食後口腔ケアが出来ているか記録し、出来ていない場合は、声かけを行ない支援をしている。		居室に口腔ケアチェック表を貼り、入居者さん自身で意識してもらい、支援をしている。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の食事量・栄養のバランス等、栄養士の指導にて、必要量を摂取できるよう、支援している。 (外部評価) 法人の栄養士が献立作成・材料の発注をしている。月1回の誕生会には、ちらし寿司・刺身・えび天・茶碗蒸しなど希望の献立にしている。ソフト食・とろみなど個人に合わせ配慮されている。水分量を把握している。		寝たきりの利用者さんは、毎食の量を計り、一日の摂取量がわかるようにしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 併設の連携医療機関で、月一回感染対策委員会に出席させてもらい、理解を深めている。 また、感染症マニュアルを定期的に全職員が確認している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 新鮮な食材を使用し中毒の予防に努めている。 調理器具等は、マニュアルに沿って衛生管理している。また、定期的な事前の検食も実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 日中は施錠せずに、利用者さんの動きを把握し、安全性にも十分配慮している。		庭には季節の花、周囲には竹を植え親しみ易い工夫をしている。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 畳の敷いてあるスペース、庭を座って眺めれるソファの配置など、ゆったりと過ごせる空間をつくる工夫をしている。 (外部評価) 天井は吹き抜けになっており開放感がある。利用者が寛ぐ共有空間からは、中庭の芝生の緑が心地良く映る。時にはピアノの生演奏もある。季節の生花が食卓を飾っている。		ホームから一步出ると明るい庭がひろがっており、そこから差し込む、やわらかい陽射しが包み込む「家」の構造になっている。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 個々の思いがかなう様に、工夫をしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 長い間使い慣れたもの、思い出の品等を持ち込んでもらい、居心地よく過ごせる工夫をしている。 (外部評価) 家族と職員が相談しながら居心地の良い安心できる居室づくりに取り組んでいる。自宅にいるのと同じように利用者の馴染みの物が上手に用意され安心して生活している。	※	何人かの入居者さんには思い出の品・使い慣れた品等を持ってきてもらっているが、他の方も必要に応じ持ってきてもらえるよう、促している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 天気の良い日などは毎朝窓を開放し、空気の入替えをしている。お年寄りの感覚にあわせた温度調節を行ない、快適に過ごせるよう努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ・風呂場・廊下・玄関等に、手すりを設け安全に移動できるようにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 失敗させない環境をつくり、自信が持てるよう支援している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物の周りには植物を植え、中庭には季節の花を植えて、入居者さんと水やりを一緒に行なっている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者1人1人の思いを尊重し、聞き入れ安心した毎日を送ってもらっている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	入居者の方々と一緒に、昔懐かしい歌を唄ったり、お話をしたりと、入居者の方々とゆっくり過ごす時間を大事にしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々の価値観・生活観を尊重し、その方の思いが生活の中で生かされるように、工夫をしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々の性格・感情を把握し、個別支援を行うことにより、生き生きした表情が見られるようになった。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	介護度、または利用者さんに合わせて、行きたいと思う所へ可能な限り、出掛けている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	併設している連携医療機関との連絡は、しっかり取れていて健康管理等不安なく過ごせている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望・希望等聞き入れは、ほぼ満足されており、安心した毎日を送っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族さんの意見・要望は、よく聞き毎日のケアの中に生かしていき、満足していただいている。 また、信頼関係は築けている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	知人・友人さん等来所されるが、介護度・その方の状態により、会話する時間に差があるように思う。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の方々が、行事の時などに遊びに来たり、気軽に立ち寄ってもらえるよう取り組んでいる。
98	職員は、生き活きと働けている	(自己 ①ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	健康に注意し、無理の無い範囲でローテーションを組み、働けていると思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の方のなにげない笑顔が、日に一度でもみられるようにケアしていて、笑い声・笑顔が多いと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ①ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族さんが来棟された際には、必ず声かけを行い、要望等があれば聞き取り、相談しながら前向きに取り組んでいるので、満足されていると思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム 菜の花

(ユニット名) ひまわり

記入者(管理者)
氏名 井出 美智子

評価完了日 19年 6月 14日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) その人らしく暮らし続けていける様、事業所独自の理念を作り上げている。 (外部評価) “優しい介護”を軸に、職員自身の言葉にわかりやすく作り変えたばかりである。地域密着型サービスについては、一つひとつ積み上げていくよう努力している。		職員全員が、納得のいく理念を作成している。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 毎朝運営理念を唱和し、実践に向けて取り組んでいる。 (外部評価) 職員の名札裏面に理念を明示し、意識を高めている。理念が生活の場で活かされ反映されるよう毎朝確認している。		日々、理念及び勤務マニュアルを職員一同、確認しあい、同じ目標を持って取り組んでいる。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 毎月1回菜の花便りを発行している。地域の人に理解してもらえよう取り組んでいる。		地域の幼稚園児等と交流をもち、催し物等があれば、スーパー等への告知もお願いしている。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近くの幼稚園・小学校と気軽に立ち寄ってもらえるよう努めている。	※	幼稚園・小学校との交流ばかりではなく、近隣の人たちが、気軽に立ち寄れるように、努めている。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 近隣の商店・学校等と交流を行ない、また地域の活動に積極的に参加するよう努めている。 (外部評価) 志津川ゆうゆうクラブとの交流は地域の人々と関わりを持つ基盤となっている。幼稚園児が定期的に歌や踊りを披露してくれたり、小学生が絵や手紙を持参してくれることは、利用者の楽しみの一つになっている。	※	行事の時だけでなく、日常的な付き合いが出来ればいいと思う。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	(自己評価) 地域のボランティアの方と活動的に話し合っ ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価後はミーティングを行ない改善に取り組んで いる。 (外部評価) ホームの質の向上のために前回評価結果の改善点を一 つひとつ丁寧に見直し、前向きに取り組んでいる。自 己評価はゆっくり時間をかけ全職員で作成している。	※	ミーティングで話し合い、職員一同、少しでも良 くしていこうとしている。 さらに参考資料等で項目の理解を深めるなど全職 員が学習され、自己評価を行うことを望む。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	(自己評価) 2ヵ月に1回地域の代表の方々が集まって、話し合 いを行なうよう、努めている。 (外部評価) いつも同法人のホームと合同で開催されている。自己 評価や外部評価の内容についても話し合っている。地 域密着型にむけメンバーの拡大をはかっていきたいと 考えている。		地域の方々の声が直接聞けるので、大事にしそ の場での意見はホームに持ち帰り、職員で話し 合っている
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	(自己評価) 県・市から訪問に来られたり、連絡を取り合っ ている。 (外部評価) ホームのケアマネジャーが市に出向き、実情や取り 組みを折に触れ伝えているが、市とのより積極的な 連携については今後の課題である。	※	グループホームを運営していく上で、学ばなけ ればならない事が多いので、連絡を密にとってい きたい。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 県・市主催の勉強会に出席し、理解を得られる 様、努力している。		5/9 県の社会福祉協議会の「成年後見制度」 の講習に参加。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 県の勉強会に、参加している。		4/24 県の社会福祉協議会の「虐待防止」 についての講習に参加。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、分かり易く十分な説明をするようにしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 相談窓口・担当を設置し、気軽に申し出できる環境を整えている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 月に1回、「菜の花だより」の発行、及び来所時に、報告している。 (外部評価) ホーム便りは毎月家族に届けている。面会時には声をかけ利用者の状況をきめ細かく伝えている。遠方の家族の中には、2～3日宿泊される方もあり、ゆっくり会話することができる。		一月に一回、生活状況・健康状況等、変化がある無しに関わらず、詳しく説明している。又面会時等に金銭管理簿にサインをもらっている。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 相談・苦情窓口、担当を設置し、気軽に申し出できる環境を整えている。 (外部評価) 管理者は、素直に家族の声を受け止めたいと意識している。苦情はホームにとって大切な宝であり、職員全員で対応・共有することが質の向上につながると考えている。		苦情相談員も配置し、ケース会議等を開催している。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングや朝礼、申し送りの時などに職員が発言出来るようにしている。		月1回、ミーティングを開催している。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 状況の変化に対応した、職員数が確保出来るよう、日頃から話し合い、勤務の調整を行っている。		申し送りノートを活用し、職務の分担を行っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 馴染みの関係が続くよう、異動には細心の注意を払っている。 (外部評価) 3ユニットで夜間は2名体制となっており、職員が3ユニット間で異動することは、利用者全員の顔馴染みになることや家族への信頼関係を深めるためにも重要なことである。全職員が安全に介護するための配慮がなされている。		管理者が、職員個々の性格を把握し、ダメージを必要最小限に、抑えるよう努力している。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 県・市の勉強会には、進んで参加するようにしている。 (外部評価) 法人内の勉強会は月に2～3回あり、内・外部の研修参加に理解がある。職員の研修意欲が高く、研修後の記録や報告は的確に行っている。		自主的に研修会や勉強会に、参加できる体制にある。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 他のグループホームさんと、イベント等開催時には、そのホームの利用者さんを、招待している。 (外部評価) グループホーム同士の例会参加の折には名刺を交換し、お互い質の向上に向けて、プラスになる事例を話し合っている。他のグループホームとの交流が計画されており、受け入れも可能である。	※	行事だけでなく、普段から相互訪問の活動をし、サービスの質を向上させる、取り組みをしていきたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 季節に応じ、職場外で食事会などを行なって会話できるようにしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の意識向上のため、研修会への参加を運営者は、積極的にバックアップしている。		研修会費用を、事業所が負担するなどバックアップし、職員の質の向上に努めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 最初のアセスメント以降も、話し合いをし、出来る限り、ご本人さんを理解するよう努力している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 何度も面会を行ない、話し合いをし、ニーズに沿える様、努力している。		家族との信頼関係を密にし、気軽に話し合える様、努めている。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 他職種の方々と相談し、判断するように努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ホームの見学などをしてもらい、時間をかけて雰囲気に馴染んで頂けるよう、努力している。 (外部評価) 本人が週1回のあそびリテーションに参加したり、家族と一緒に見学したり、納得した上で安心感を持って入居できるようにしている。		職員・他の入居者さんと食事をしたり、又、遊ビリテーションを見学していただき、雰囲気に馴染めるよう工夫している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 介護するではなく、同じ目線で助け合いながら、共に生活できるよう、努力している。 (外部評価) 寝たきりであっても常に声かけや握手をしたり、コミュニケーションを大切にしている。利用者の昔話を傾聴し、一緒に暮らす中で安心や安定が生み出されるよう全職員が留意している。		日々のケアにて、その人の価値観を尊重し共に支えあう関係を、築いていく取り組みをしている。また、観察記録等を活用している
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方と常に話し合い、共に支えあう関係づくりに、努めている。		家族との情報交換をしながら支援していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人と家族さんが、ゆっくり楽しく生活出来る様な雰囲気づくりをして、良い関係が築ける支援をしている。	※	家族の方が気軽に来所でき、本人さんと同じ時間を過ごせる様に努めていきたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ホームが所有している畑などで、出来た野菜を収穫して楽しんでいる。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 入居者さんの感情・価値観を尊重し、共同生活が楽しく送れる様、努めている。		個々の価値観を尊重しながら、共同生活が有意義であるよう、努めている。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 契約が終了しても、継続的に併設の病院に来られる方も多いため、声かけを行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ひとりひとりの、希望や意向を取り入れ、より良い暮らしができるよう、支援している。 (外部評価) 食後やおやつの時など利用者の満足度が高い時やゆっくり寛いだ気分の時に、趣味の歌・ぬり絵・習字などの希望や思い、意向等を把握するよう努めている。	※	本人さんが困難な場合は、家族との話し合いなどにより支援していく。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族さんが来所された時、生活歴などを聞き把握し、暮らしよい環境づくりに努めている。		本人が困難な場合は、多方面から聞き出す努力をしている。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 出来る事と、出来ない事を把握し、その人にとっての生活が良くなる様に、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的に、サービス担当者会議を行なっている。	※	家族の要望をもっと、取り入れていきたい。
			(外部評価) 利用者一人ひとりにあったケアができるよう、家族の協力を得ながら、担当職員やケアマネジャーを中心に介護記録等も参考に、介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 期間に応じて、計画の見直しを行なっている。		本人、家族さんに、見直しが必要であることを説明したうえで、現状に即した介護計画の見直しを行っている。
			(外部評価) 見直しは3か月に1回行い、月1回のミーティングでも検討している。利用者の状態変化や状況・家族の要望に応じ随時見直しを行っている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 月に1回、各棟ごとにミーティングをし、また申し送り等で、情報共有に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 急な外出等は、職員が付き添える様、支援している。	※	もっと柔軟に、家族さんの要望に応じられるようにしたい。
			(外部評価) 同法人に小規模多機能性を持った施設がある。ホームとしての多機能性については、運営者の意向が反映されている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 毎日の生活の中で、必要となるものは連携を図っている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人さんの状況に応じ、適切なサービスが受けられる様にしている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 今は該当する利用者さんがいないが、今後は必要に応じ、成年後見制度なども活用していきたいと思う。	※	地域包括支援センターの知識を得て、地域の中で暮らしていくうえで、必要となる事の学習を重ねていきたい。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 併設の連携医療機関の医師に、週1回の往診等により、適切な医療が受けられるよう支援している。 (外部評価) 週1回訪問診療がある。血液検査やレントゲン撮影など一人ひとりの状態に合わせて受けることができる。結果は家族と共有し、疾病の進行予防等に役立っている。		症状・体調の変化がある時は、医師・及び家族さんにも連絡を取り、適切な医療が受けられる様支援している。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 併設の医療機関の医師が、専門医の為診断や治療を受けている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 併設の連携医療機関と、連絡を取り合っている。		日常の健康管理や、医療活用を密にし、支援している。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 併設している連携医療機関と連絡を取り、入院した時など、安心して過ごせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 母体の医療機関が併設なので、医師・家族さんと連絡を取り合い、方針を共有している。 (外部評価) ホームとして看取りの経験があり、現在も重度の寝たきりの利用者が数名いるが、職員同士チームを組んで最大のケアができる体制になっており、家族は安心している。		本人、家族さんの意見を尊重し、終末期のありかたについて、充分話し合い、全員で方針を共有している。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 母体の医療機関が併設なので、医師・看護師・家族さんと連絡を取り合い、方針を共有している。また、変化があった場合は、速やかに検討できる環境を整えている。	※	死に対する倫理観の、勉強を行っていききたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 住み替え時には、ケア関係者間で話し合い本人のダメージを防ぐ事に、努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 誇りを損ねるような言葉使いや、態度には十分注意している。個人情報の持ち出しや、流出がないよう、厳しく管理している。 (外部評価) 職員はプライバシー保護の誓約書を就業時に交わしている。利用者の尊厳については利用者を傷つけないようさりげなく看ることをモットーにしている。言葉かけには細心の注意を払っている。		必要に応じ、個室で対応を話し合っている。個人情報には、持ち出さないようにしている。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人さんの力に合わせ、納得いくまで説明し、納得した暮らしが出来る様、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その方らしくを基本に、その方に合ったペース、希望を聞きながら、支援している。 (外部評価) 利用者の余裕ある落ち着いた表情や笑顔は、理念にもある優しい介護の賜物である。職員の明るさが加わり重度の方へのスキンシップ・声かけも行き届いている。	※	日々の作業に追われ、職員側の都合になっている事もあるので、気をつけたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 衣類・身だしなみは本人の希望を取り入れ支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 現在介助を必要とする利用者が多い為、職員全員は出来ないが、可能な限りしている。 (外部評価) 菜園のじゃが芋や夏野菜も食卓に登場する。配膳のできる人には活躍してもらい、和やかな雰囲気ですぐ進められている。		ひとりひとりの能力を把握し、一緒に準備や食事ができるよう努める。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 現在タバコ・お酒を希望される方はいないが、飲み物やおやつは、状況に応じ楽しんでもらっている。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 気持ちよく排泄できるよう、常に支援している。		失敗しても、自尊心を傷つけない様、配慮している。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 本人さんの希望に応じ、タイミングを合わせて入浴支援している。 (外部評価) 午前・午後と入浴可能である。入浴を拒む利用者には、「訪問診療日なのできれいにしましょうね」と優しく言葉かけをしたり、家族に声かけに協力してもらうなど、心地良い入浴支援を行っている。		ひとりひとりの生活パターンに合った、入浴を楽しめるよう支援している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は、各個人の趣味をしてもらったり、皆で遊んだり、休んでもらったりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 職員の手伝いをしてもらったり、個々の楽しみ事ができるよう、支援している。 (外部評価) 一番の気晴らしは外出すること。職員と食料品や衣類の買い物・外食・神社の行事など喜んで参加している。ホーム内では洗濯物の片付け・食事の準備・すそ上げなどを手伝うことで、自分らしい姿を発揮している。		洗濯・配膳等、個人の能力に応じて楽しく、生きがいを持って暮らせる様に、支援している。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人さんの希望や能力に応じて、お金を所持していただき、使えるように支援している。		近所のスーパー等で買い物をする時、入居者さんにお金を渡し、支払ってもらうようにしている。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 月単位でスケジュールを決め、出掛けるようにしている。 (外部評価) 毎週木曜日の午後は外出計画を立てて実施している。近隣の方と会うと会話が弾む。	※	もう少し外出できるよう、可能な限り工夫をしていきたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 利用者、家族さんとの話し合いをしながら、出掛けられる機会を、設けている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者さんの要望により、電話・手紙のやり取りが出来るように、支援している		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族や知人さんが、気軽にいつでも訪問できるような雰囲気づくりをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全ての職員が、身体拘束の弊害を理解しており、禁止の対象となる行為をしないようにしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけることの弊害は理解しているが、帰宅願望が強く、徘徊の方もいる為、外玄関などに鍵をしている。 (外部評価) 利用者が安全に自由に暮らせることを大切に考えている。外出傾向の高い方も見られるが職員は連携プレーで対応している。建物が長い廊下で繋がっているのので、老人車を押しながら行ったり来たりする利用者も見受けられた。		なるべく、鍵をかけないケアに取り組みたいが、やむをえない場合、家族に説明し、理解を得られる様努力している。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 本人のプライバシーに配慮しながら、様子を把握し、安全に努めている。		夜間の安全確認は、入居者の方が驚いたりしないよう、配慮している。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じて使用しながら、見守りながら、危険防止に努めている。		危険な物品は、入居者の方の目に見えない、手の届かない場所に保管、管理している。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ひとりひとりの状態に合わせ、利用者に応じた自己防止に取り組んでいる。		服薬は、間違いのないよう確認をし、チェック表に記入する様にしている。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 利用者の行動を把握し、全ての職員が緊急時に対応できるよう、定期的に訓練している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防災マニュアルを作成して、年2回東温消防署の指導や訓練を受けている。また、地域の方々の協力や支援が得られるよう働きかけている。 (外部評価) 防火・避難訓練は3月と9月に年2回実施しており、夜間想定も行っている。マニュアルが作成されている。建物は平屋で、広い中庭に避難しやすい設計になっている。	※	地域の方の協力が得られるように、災害時の訓練と一緒にできる様に、努めていきたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 起こり得るリスクについては、入居時に家族さんに説明し、納得してもらい、支援策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調には常に気をつけ、早期発見出来るよう見守り、速やかに対応している。		母体が医療機関の為、速やかに医師に連絡をし24時間対応出来る環境が整っている。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者ひとりひとりが、服用している薬について、職員は理解出来ている。また、薬情等で、副作用や注意事項を理解する努力をしている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の排泄のパターン・状況を把握し、予防と対応に取り組んでいる。		食材にも気をつけ、便秘がちの人にはいつも水分が充分取れるように、配慮している。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアが出来ているか、ハミガキチェック表で、確認している		各居室に、口腔ケアチェック表を張り、本人さんにも意識して、毎日実施してもらえよう、工夫している。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が、栄養のバランスを考えているので、その方に合った、必要な水分は確保されている。 (外部評価) 法人の栄養士が献立作成・材料の発注をしている。月1回の誕生会には、ちらし寿司・刺身・えび天・茶碗蒸しなど希望の献立にしている。ソフト食・とろみなど個人に合わせ配慮されている。水分量を把握している。		利用者さんに、食事や水分摂取の必要性を説明し、支援している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症マニュアルに従がい、予防している。併設の医療機関にて、月1回の感染症対策委員会に出席させてもらい、勉強をしている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 衛生管理を徹底し、新鮮で安全な食材を使用し、食中毒の予防に努めている。また、器具等はマニュアルに沿って、衛生管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 利用者や家族さん、近隣の人にとって、親しみやすく、安心して出入りが出来る様になってきている。		庭には季節の花、周囲には竹を植え、親しみやすくしている。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節ごとの花や、飾りつけなどをして、常に居心地のよい空間作りを、目指している。 (外部評価) 天井は吹き抜けになっており開放感がある。利用者が寛ぐ共有空間からは、中庭の芝生の緑が心地良く映る。時にはピアノの生演奏もある。季節の生花が食卓を飾っている。		ホームから一歩出ると、中庭が広がっており、その中庭を包み込むような、平屋建ての構造になっている。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者が安心できる居場所、個々の好きな場所で過ごせるよう、工夫している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 思い出の品や、写真などを持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるよう、工夫している。 (外部評価) 家族と職員が相談しながら居心地の良い安心できる居室づくりに取り組んでいる。自宅にいるのと同じように利用者の馴染みの物が上手に用意され安心して生活している。		可能な限り、持ちこめる方には、家族さんに話しをして、協力してもらって支援をしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 空調・換気には十分気をつけ、個々に合った温度調節をして、快適な生活を送ってもらっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内部を有効利用したり、手すり等を利用する事により、安全で自立した生活が送れるよう、工夫している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) リハビリスタッフと協力して、混乱や失敗の無いよう、わかる力を活かして、自立して暮らせるよう、工夫している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 中庭には季節の花を植え、建物の周りには植物を植え、これらを見て楽しんでいる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者の思いや願いを十分聞き、その人らしい暮らしが送れるよう、努めている
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある ②数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	利用者の方と一緒にゲームをしたり、歌を唄ったり、充実した楽しい時間を過ごしている
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員全員が、利用者一人ひとりのペースで暮らせるよう、ペースを合わせている
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その人に合った対応をしながら支援することで、生き生きした表情がみられる
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の方に事前に行きたい所を聞き、出掛けてもらっている
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	医院との併設によって、健康面、医療面、安全面で安心して過ごせている
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の要望は、その時々聞き入れるようにしている
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	意見箱を置いたり、アンケート形式で家族の方が、意見、要望を言いやすい環境作りに努めている
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	地域の人々との交流を図るため、新聞の発行や、催しごとを開催しているが、まだ充分交流が深まっていない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の方々に気軽に立ち寄ってもらえるよう、取り組んでいる
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 ①ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の方々と一緒に健康に気をつけ、信頼関係を築きながら働いている
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の意見、要望を充分聞き入れたサービスを提供するよう努めている
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ①ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族の方が来棟された時に充分話をするようにし、要望、意見等を聞き、サービスに反映するようにしている

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム 菜の花

(ユニット名) やまぶき

記入者(管理者)
氏名 井出 美智子

評価完了日 19年 6月 14日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 優しい介護をめざします。温かい家庭的な安心できる環境づくりをいたします。常にご利用者の立場になることを忘れません。 毎朝の申送り後、読み上げ、理解を深めている。 (外部評価) “優しい介護”を軸に、職員自身の言葉にわかりやすく作り変えたばかりである。地域密着型サービスについては、一つひとつ積み上げていくよう努力している。		職員が理念を交代で読み上げ、常に努力している。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念の文書を短く明示し、字も大きくして、分かりやすく書き換えた。 (外部評価) 職員の名札裏面に理念を明示し、意識を高めている。理念が生活の場で活かされ反映されるよう毎朝確認している。		理念の文書を玄関に配置したり家族、外来者にも分かり易く理解してもらえるよう努力している。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 月1回、菜の花だよりを発行している。地域との交流もできている。		地域の方に声かけしたり催し物のポスターなど協力してもらっている。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 隣近所、幼稚園、小学校との交流を深めている。	※	月一度とか二ヶ月に一度と少ないので日常的に交流が出来る様期待したい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 近くの商店、学校等と交流を行い、また地域の活動に積極的に参加するように努めている。 (外部評価) 志津川ゆうゆうクラブとの交流は地域の人々と関わりを持つ基盤となっている。幼稚園児が定期的に歌や踊りを披露してくれたり、小学生が絵や手紙を持参してくれることは、利用者の楽しみの一つになっている。	※	行事の時だけでなく、日常的な付き合いができれば良いと思う。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	(自己評価) 地域社会への行事参加、又行事開催により、地域 に密着した活動を行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員一丸となって、評価や意義を理解し、取り組んで いる。 (外部評価) ホームの質の向上のために前回評価結果の改善点を一 つひとつ丁寧に見直し、前向きに取り組んでいる。自 己評価はゆっくり時間をかけ全職員で作成している。	※ ※	外部評価を受け、改善していきたい。 さらに参考資料等で項目の理解を深めるなど全職 員が学習され、自己評価を行うことを望む。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	(自己評価) 委員の皆さんの意見を聞き、前向きにサービスの向上 に活かしている。 (外部評価) いつも同法人のホームと合同で開催されている。自己 評価や外部評価の内容についても話し合っている。地 域密着型にむけメンバーの拡大をはかっていきたいと 考えている。		広く意見を求めアドバイスを受けている。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	(自己評価) 県・市、共に訪問して頂いたり、訪問したり、常 に、連携をとっている。 (外部評価) ホームのケアマネジャーが市に出向き、実情や取り 組みを折に触れ伝えているが、市とのより積極的な 連携については今後の課題である。		他の施設の方にも見ていただき又、訪問させて頂 きサービス向上につなげている。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在は、該当者はいないが、県・市の勉強会に出 させて頂き、学び、理解を得る様、つとめてい る。		5/9成年後見制度研修参加
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 県の勉強会出席		4/24高齢者虐待研修参加、施設でミーティング開 き職員一同で勉強する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所申込時、契約時、分かりやすく説明している。		家族に詳しく説明行っている。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 相談、苦情窓口を設置し、対応している。		意見箱を玄関に設置し受け入れ易くしている。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 金銭管理簿や、収支の報告を、菜の花だよりなどで送っている。 (外部評価) ホーム便りは毎月家族に届けている。面会時には声をかけ利用者の状況をきめ細かく伝えている。遠方の家族の中には、2～3日宿泊される方もあり、ゆっくり会話することができる。		個々にあればその都度送らせて頂いている。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付相談箱あり (外部評価) 管理者は、素直に家族の声を受け止めたいと意識している。苦情はホームにとって大切な宝であり、職員全員で対応・共有することが質の向上につながると思っている。		苦情受付ファイル作成し記録保存している。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングで反映している。		日々の朝礼、月一度のミーティング開催し何かあればその都度話し合いしている。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) ローテーションを組んで、勤務にあたっている。		申し送りノートを活用し職務の分担を行っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) ローテーション勤務の中で、引継ぎを密にし、馴染みやすい環境を作っている。 (外部評価) 3ユニットで夜間は2名体制となっており、職員が3ユニット間で異動することは、利用者全員と顔馴染みになることや家族への信頼関係を深めるためにも重要なことである。全職員が安全に介護するための配慮がなされている。		アセスメント情報の活用により利用者さんの馴染みやすい環境を作るよう努めている。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 専門分野の職員による。院内勉強会を開いている。 (外部評価) 法人内の勉強会は月に2～3回あり、内・外部の研修参加に理解がある。職員の研修意欲が高く、研修後の記録や報告は的確に行っている。		法人内での勉強会の実施、社外研修への参加を勧めている。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 市内グループホーム交流している。 (外部評価) グループホーム同士の例会参加の折には名刺を交換し、お互いの質の向上に向けて、プラスになる事例を話し合っている。他のグループホームとの交流が計画されており、受け入れも可能である。		相互訪問行っている、見学に来られる同業者も多い。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 食事会、レクリエーション有り、ストレス軽減に努めている。		レクリエーション等行い相互理解を深めている。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の意識向上のため、研修会への参加等を、バックアップしている。		研修費用の事業所負担などでバックアップしている。職員の質の向上に努めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人からの相談や、困っていること、不安な事は、しっかり耳を傾け、受け止める努力をしている。		聴力の弱い利用者さんは、ボードに書く等筆談にて意思疎通はかっている。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族等が困っている事、不安な事は、よく聴く機会を作り、安心してもらえるよう努力している。		納得してもらえるまで幾度となく見聞の機会を設けている。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族が必要としている支援を見極め、サービス利用の対応を努めている。	※	ケアマネージャーとのカンファレンスを密に行い個別に支援する努力をする。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 相談されてから関わる職員、見学などの時間をゆっくり馴染めるよう努力している。 (外部評価) 本人が週1回のおそびリテーションに参加したり、家族と一緒に見学したり、納得した上で安心感を持って入居できるようにしている。		職員や他の入居者さんとの関わりを持つ様に支援している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 介護する、利用する関係ではなく、一緒に、共に生活を支えあう関係作りに努力している。 (外部評価) 寝たきりであっても常に声かけや握手をしたり、コミュニケーションを大切にしている。利用者の昔話を傾聴し、一緒に暮らす中で安心や安定が生み出されるよう全職員が留意している。		様々な事を教えてもらう姿勢でケアにあたりその人の価値観を尊重し共に支えあう関係を築いていく取り組みをする。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族さんのお話を傾聴し、本人の希望も取り入れ、共有しあう関係作りができるよう努力している。		家族との情報交換をしながら支援を行っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築けられるよう支援している。		一緒に長時間話し合える雰囲気づくりに努めている。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人が大切にしている事や物、馴染みの人や場所は、途切れないよう、支援につとめている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 本人の意向を取り入れながら孤立する事のないよう、利用者同士関わり合えるよう努めている。		個々の価値観を尊重しながら共同生活が有意義であるように努めている。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) サービス利用が終了しても、利用者や家族には、関係を断ち切ることのないよう、付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの希望や意向を取り入れ、暮らしよい方向に支援している。 (外部評価) 食後やおやつの時など利用者の満足度が高い時やゆっくり寛いだ気分の時に、趣味の歌・ぬり絵・習字などの希望や思い、意向等を把握するよう努めている。		本人が困難な場合は家族との話し合いの中で把握し見出している。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や、馴染みの暮らし方を把握して、暮らしよい環境に努めている。		本人が困難な場合は多方面から聞きだす努力している。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一人ひとりの一日の過ごし方は、まちまちだが、十分に満足し、有意義に過ごされています。		本人の質を上げるべく努力している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) チームで多くの場をもうけ、話し合い、それぞれ意見を出し合いながら、よりよい介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者一人ひとりにあったケアができるよう、家族の協力を得ながら、担当職員やケアマネジャーを中心に介護記録等も参考に、介護計画を作成している。		サービス担当者会議を開催している。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の見直しを行なうのはもちろんのこと、どんな変化にも対応出来る新たな計画を作成している。 (外部評価) 見直しは3か月に1回行い、月1回のミーティングでも検討している。利用者の状態変化や状況・家族の要望に応じ随時見直しを行っている。		本人、家族に、見直しが必要であることを説明したうえで、現状に即した介護計画の見直しを行っている。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の気づきを怠らず、個別記録に記入し、情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		月に一回のミーティングあるいは申し送り等で情報の共有に努めている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人や家族の要望に応じて、多機能性を活かした柔軟な支援をしている。 (外部評価) 同法人に小規模多機能性を持った施設がある。ホームとしての多機能性については、運営者の意向が反映されている。	※	グループホームの特性を活かし、よりもっと柔軟に家族の要望に対して応じられるようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 本人の意向に応じられるような体制をし、必要ならば協力している。		必要に応じ連携はかっている。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の状況や意向、そして必要性に応じながら適切なサービスが受けられる様支援している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 現在は該当する利用者はいないが、成年後見制度等活用していきたいと思っている。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 併設しているDrの週1回の往診により、信頼関係が、築かれている。 (外部評価) 週1回訪問診療がある。血液検査やレントゲン撮影など一人ひとりの状態に合わせて受けることができる。結果は家族と共有し、疾病の進行予防等に役立っている。		時と場合によっては診察出来るよう対応している。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 併設の連携医療機関が専門医の為、診断や治療は、安心して受けることが出来る。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 併設の連携医療機関とは密に連絡を取り合っている。		日常の健康管理や医療活用は一致団結して連携を取り合っている。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 利用者が入院した時は、安心して過ごせるよう、連携医療機関とは常に連絡を取り合っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 本人や家族等、ならびに、かかりつけ医等で、納得いくまで繰り返し話し合い、全員で共有している。 (外部評価) ホームとして看取りの経験があり、現在も重度の寝たきりの利用者が数名いるが、職員同士チームを組んで最大のケアができる体制になっており、家族は安心している。		家族の希望があれば医師・スタッフと方針を共有してターミナルケアを実施している。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 利用者が安心して、よりよい毎日が送れる様、家族との話し合いは、十分に持ち続けています。		併設の病院が母体なので、密に連絡や相談が出来る環境が整っている。また、連携医療機関と24時間いつでも連絡を取れる様になっている。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ケア関係者間での情報交換を常にし、ダメージを防ぐことに努力している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 一人ひとりに合わせた言葉掛けや対応をし、個人情報には外部に漏らさないよう、持ち出さない様、取り扱いに気をつけている。 (外部評価) 職員はプライバシー保護の誓約書を就業時に交わしている。利用者の尊厳については利用者を傷つけないようさりげなく看ることをモットーにしている。言葉かけには細心の注意を払っている。		必要に応じ個室や自室で話し合ったり個人情報は目の触れる所へは置かない様にしている。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人の意思表示をしっかりとし、受入れ、納得してもらいながら暮らしてもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1ヶ月のスケジュールに合わせながら、利用者の希望に沿うよう、支援している。 (外部評価) 利用者の余裕ある落ち着いた表情や笑顔は、理念にもある優しい介護の賜物である。職員の明るさが加わり重度の方へのスキンシップ・声かけも行き届いている。		個々に行きたい所、買い物、外食など希望にそって支援している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 身だしなみやお洒落は、本人の希望を取り入れ、支援している。又、理容室は、行き着けの店へ、家族同伴で、行かれています。		行けない人には美容師に来棟してもらいおしゃれされている
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員全員ではないが、実行しながら、出来る利用者には、かたづけまでしてもらっている。 (外部評価) 菜園のじゃが芋や夏野菜も食卓に登場する。配膳のできる人には活躍してもらい、和やかな雰囲気です。食事が進められている。		おやつなど手作りに参加してもらい利用者と一緒に作っている。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お酒やタバコは吸われない為、おやつ、飲み物は、好みの物を、状況を判断して楽しんでもらっています。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 利用者本人の力を活用し、気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 本人の希望をできる限り受入れ、見守りの利用者は、毎日でも入浴してもらっている。 (外部評価) 午前・午後と入浴可能である。入浴を拒む利用者には、「訪問診療日なのできれいにしましょうね」と優しく言葉かけをしたり、家族に声かけに協力してもらおうなど、心地良い入浴支援を行っている。		本人の希望があれば夜間・朝など問わず希望を支援している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) その時々状況に応じ、随時、安心して、気持ちよく休んでもらえるよう、支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 外気に触れられるよう、中庭にて、ボール遊び等をして、日々過ごしている。 (外部評価) 一番の気晴らしは外出すること。職員と食料品や衣類の買い物・外食・神社の行事など喜んで参加している。ホーム内では洗濯物の片付け・食事の準備・すそ上げなどを手伝うことで、自分らしい姿を発揮している。		家庭菜園・庭いじり・お花などが楽しめる様に支援している。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の希望や、力に応じて、所持したり、使えるよう、支援している。		週2回程パンの販売に、来てもらっている。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 1ヶ月のスケジュールを企て、それに希望を取り入れながら、戸外に出掛けるようにしている。 (外部評価) 毎週木曜日の午後は外出計画を立てて実施している。近隣の方と会うと会話が弾む。	※	もう少し外出が出来るように工夫したい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 行きたい所の要望を聞きつつ、個別に外出してもらい、及び、家族との外出は把握した上で、外出してもらっている。		レクリエーション等にて、行ってみたい所に希望にそえるようスケジュールを組み実施している。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族に連絡がとれるよう配慮し、毎日の菜の花だよりと共に、手紙を同封している。		家族が遠くに居る方には、記念日、誕生日等には電話をしたり支援している。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全ての職員が身体拘束の弊害を十分に認識及び理解しておりそういう行為の無いようにケアに取り組んでいる。		禁止の対象となる行為はしない様にしている。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者や家族に心理的圧迫をもたらさないように、居室や日中の玄関は施錠していません。外玄関は、不審者の侵入を防ぐなど、防犯上施錠している。 (外部評価) 利用者が安全に自由に暮らせることを大切に考えている。外出傾向の高い方も見られるが職員は連携プレーで対応している。建物が長い廊下で繋がっているのので、老人車を押しながらいったり来たりする利用者も見受けられた。		基本的に施錠をしない取り組みをしているが、やむをえない場合は家族に説明し、理解を得られるように努めている。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 利用者個人のプライバシーに配慮しつつ様子を把握し安全に努めている。		日中玄関・ホール・自室に鍵はかけていないが夜間には玄関に鍵をかけている居室のドアがスリガラスになっていて近づくと様子が把握できるようになっている。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人一人の状態に応じて物品を使用してもらい、見守りながら危険防止に努めている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 投薬チェック表で服用ごとに入れる。又、利用者に合わせて事故防止に取り組んでいる。		誤った服用をしない為にも服用する時見守りを怠らない。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 日々利用者の行動を把握し、事故発生時に備え応急手当や初期対応の訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防災マニュアルを作成し年2回東温消防署の指導と訓練を受けている。又地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 (外部評価) 防火・避難訓練は3月と9月に年2回実施しており、夜間想定も行っている。マニュアルが作成されている。建物は平屋で、広い中庭に避難しやすい設計になっている。		何時どんな災害があるかわからない為まだまだ訓練に重きを置くように努める。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 起こりうるリスクについては家族によく説明し納得してもらい利用者の暮らしを大切にしよう話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) いつも体調管理や異変に気付くよう見守りつつ気付いた際には速やかに対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者一人一人が服用する薬は把握しており、用法や用量は理解している。		臨時薬が処方された場合も用法・用量を理解し怠り無く努める。
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の便秘の原因を追究し予防と対策にとりこんでいます。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) ハミガキチェック表に毎分後口腔ケアが出来ていれば記録し支援している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の食事量及び栄養バランスは状態に合わせ確保できるよう支援している。 (外部評価) 法人の栄養士が献立作成・材料の発注をしている。月1回の誕生会には、ちらし寿司・刺身・えび天・茶碗蒸しなど希望の献立にしている。ソフト食・とろみなど個人に合わせ配慮されている。水分量を把握している。		利用者さんに、食事や水分摂取の必要性を説明し、支援している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 仕事に入る前には感染症のマニュアルに目を通し作業が変わる事に手洗い施行に努めている		併設の医療機関で月一度の感染症対策の勉強会に出席している。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 衛生管理を徹底し安全かつ新鮮な食材を使用し食中毒の予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 日中は玄関を施錠せず。利用者の外出の把握は徹底しており安全性には配慮している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間は季節感を出し、居心地の良い生活を楽しんでもらっている。 (外部評価) 天井は吹き抜けになっており開放感がある。利用者が寛ぐ共有空間からは、中庭の芝生の緑が心地良く映る。時にはピアノの生演奏もある。季節の生花が食卓を飾っている。		ホームから一步出ると、中庭が広がっており、その中庭を包み込むような平屋建ての構造になっている。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者の安心できる場所、落ち着ける場所見出して上げ思い思いに過ごせるように工夫している。		一人の時も安心できる上質の空間を目指している。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 昔から使い慣れた物や思い出の品を持込んでもらい部屋での居心地の良さを出しています。 (外部評価) 家族と職員が相談しながら居心地の良い安心できる居室づくりに取り組んでいる。自宅にいるのと同じように利用者の馴染みの物が上手に用意され安心して生活している。		利用者皆さんに持ってきてもらえるよう、家族の方にも話をして、支援していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 空調には十分に気をつけ、快適な生活を送ってもらっています。		一人一人の体質に合った温度調節はまめに行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 身体機能を活かせるように建物内部を有効に活かし自立した生活を送ってもらっている。		施設はまだ新しい為、建物内部は自立に向け工夫されている。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) リハビリスタッフとの対話のもと失敗のないように分かる力を活かして、自立できるように工夫している。		楽しんで又有効なるリハビリを目指しつつ取り組めるよう努力がうかがえる。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物の外周りには目に優しい観葉植物を植え込み、中庭には季節とりどりの花々が咲き乱れ喜ばれています。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者様ひとりひとりの、思いや願いを聞き入れ、リラックスした毎日を送ってもらっている。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	利用者様が喜んでもらえるように、懐かしい唄を唄ったりすると、生き生きして笑顔も出てきます。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ひとりひとりの希望に合わせて寛いでもらい、生き生きとした暮らしが、出来ている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者様ひとりひとりの、対応を考えながら支援していき、生き生きした表情や姿を見ることが出来る。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	介護度により、利用者様個別の可能な限りの希望に沿った所へ、外出できるようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	連携医療機関と併設のため、健康面・医療面・安全面において、安心して過ごせている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望・希望等を聞き入れ、ほぼ満足されており、安心した毎日を送っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族様の意見・要望はよく聞き入れ、十分に満足してもらっており、信頼関係は出来ている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ①ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	知人・友人様が来所され、利用者様と一緒にホール、または自室にて長時間にわたり、楽しく談笑されている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の方々が遊びに来たり、気軽に立ち寄ってくれるよう、取り組んでいる。
98	職員は、生き活きと働けている	(自己 ①ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	無理のない範囲で、ローテーションをくみ、日々楽しく仕事が出来ていると思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	声かけをして、意見・要望等を十分に聞き入れるよう努めている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ①ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族様が来所された際には必ず声かけをし、要望は聞き取り、連絡し合いながら、前向きに取り組んでいる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)